

キャラバンメイトとして地域に貢献できること

和歌山県認知症介護指導者 長森 秀尊

キーワード: 連携・認知症の啓発・伝える・本人の声

活動の概要(活動の主体:和歌山市キャラバンメイト連絡会)

【活動目的】

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりの推進を図るため、サポーター養成講座の実施やキャラバンメイト同士の連携、地域住民に対する認知症の啓発活動を目的とする。

【活動内容】

認知症サポーター養成講座及びキャラバンメイト・フォローアップ研修の開催。和歌山市地域包括支援課等と連携し、認知症啓発活動、認知症フォーラムの開催・認知症の人と家族の会のイベントへの協力など。

活動のきっかけ、背景(その他・キャラバンメイトとしての立場で)

平成 25 年ころより和歌山市においてサポーター養成講座のニーズが増加し、当時の和歌山市の担当者より相談があり、連絡会を立ち上げることとなる。和歌山市に事務局において、主要な役員を人選し運用するようになる。その後、サポーター養成講座だけでなく、地域への啓発活動の必要性を感じ現在に至る

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成 26 年に和歌山市キャラバンメイト連絡会を立ち上げる。当時のメンバーは市職員、ケアマネージャー、介護事業所経営者・管理者・職員等市内の民生児童委員や自治会等への積極的なサポーター養成講座を開催県内のキャラバンメイトを対象としたフォローアップ研修の実施平成 28 年にサポーター養成講座平準パワーポイント資料の作成、メイト個々に使用する資料が異なり、逸脱しているケースもあると聞き、テキストに基づき資料を作成し、県内の包括支援センターへの開示を行い使用できるようにする。平成 29 年には、サポーター養成講座だけでは、認知症の啓発は進まないと話合いを行い連絡会として啓発イベントとして認知症フォーラムを計画し開催する。また、和歌山市地域包括支援センター保健師と連携し、小学校を対象に実施していたキッズサポーターの事業にも協力し市内にある 51 に小学校を 2 年間で全校実施できる体制づくりを行う。その間、県内市町村の連絡会立ち上げのサポートや市町村の連絡会研修会に参加し、講座開催のスキルアップ等の支援を行う。



【活動の成果】

平成 30 年からは認知症の人と家族の会が主催するアルツハイマーでイベントに登壇したり、認知症相談を行うなど他団体との連携も図る。当事者の登壇していただき、本人の視点から認知症の理解を深めてもらうよう、イベント企画を協働で実施する。今年度は本人座談会と家族の声を聴く機会を設け、次回の認知症フォーラムにはその当事者に登壇していただく予定となっている。

今後の展望

連絡会としてサポーター数を増やすということも重要であるが、地域への発信をより活発に行っていくこと。また、サポーターやメイトが活躍できる場づくりを行政と一緒に考えていきたい。これらを推進していくためには行政のバックアップが重要であるので、これは一番の課題と考えています。